

# 弘前藩日記目録

(八)

弘前藩政史研究会

(延宝五年一月)

廿五壬寅日 卯刻雪未刻地震

1. 仏殿にて祭礼

2. 5. 報恩寺へ参詣(四)

廿六癸卯日 晴

1. 5. 4. 屋敷下さる(四)

5. 養生中、御役銀差上願

6. 7. 医者の江戸登願

8. 名替願

9. 縁組願

10. 5. 13. 奉庵へ料理・対願・柏子(四)

廿七甲辰日 晴

1. 式日論語

2. 式日寄合

3. 誓詞

廿八乙巳日 晴

1. 恒礼の御礼

2. 名替

3. 祝言御礼

4. 酒井稚柴頭へ進物

5. 姓名替願

6. 役仰付

廿九丙午日 晴

1. 仏殿にて祭礼

2. 5. 6. 長崎寺へ参詣(五)

卅丁未日 晴

1. 檀役仰付

2. 3. 江戸退言置(二)

4. 組入

5. 主馬内室平産

6. 依事方申付

7. 輕者役入に退出の知行書付

8. 御供赦免

9. 明朝三十二才の御祝

10. 正蔵年九才

11. 脇崎商

延宝五丁巳丑二月小

一戊申日 晴 未刻雨

1. 元日の如く御祝儀

月垂 北村弥右衛門

2、又昌院より使者

3、5、諸御礼（三）

6、又昌院へ進物

7、同人へ平蔵より進物

8、又昌院へ

9、防火のため雪田は不用の事

10、西馬場へ

二己酉日 昨未刻雨及今終日

1、式日寄合

2、湯治御礼

3、通臺救更

三庚戌日 晦

1、病長快復登城

2、主馬内室より長泉院へ使者

3、4、上家当分借りるの件（二）

5、江戸定役申付

6、湯治御暇

7、11、木村奎之助方へ

四辛亥日 昼霽

1、又昌院より使者

2、江戸定役

3、既者斗争

4、町直追放

五壬子日 晦

1、仏殿にて祭礼

2、庄右江内登城

3、江戸より花御

4、又昌院より使者

5、知行申渡

6、11、例年の如く泉光院登城（他五）

12、平蔵毎領物を又昌院へ

13、近衛家より歳暮御礼

14、平蔵拜領の祝詞

15、慈惠大師の園により兼恩寺で祈禱

16、平蔵尼松の祈禱―最勝院

17、全、他の五山も

六癸丑日 辰子刻大雨及今巳刻

1、又昌院へ

2、年頭の手書到着

3、又昌院へ使者

4、湯治暇

5、玄藩・外記・左四等登城

6、木村奎之助宅へ御成の産し

7、平蔵毎領祝詞に登城

8、本多中務臺表督事

七甲寅日 風雪

1、式日寄合

2、又昌院へ使者

3. 台所買物之事

4. 国上寺より御守札

八乙卯日 暘

1. 文昌院より使者

2. 文昌院へ使者

3. 文渡寺より御守札

4. 次太夫湯治

5. 召出

6. 廣屋願

7. 隱居願

8. 病氣御役御免

9. 外々浜小知行派の事

10. 借金申付之事

11. 飛脚を登す

12. 不届の者追放

九丙辰日 暘

1. 文昌院へ

2. 御挨拶うかがいに登城の者

3. 西馬場へ

4. 5. 御坊主・小知行へ申渡(二)

6. 臆胎歌分別の状より献上(一一)

13. 長町の者不届につき越山追放

十丁巳日 暘 戌下刻地震

1. 江戸へ飛脚

2. 御書物預役誓詞(他二)

4. 相鏡願

5. 足輕・小知行と取替

十一戊午日 暘

1. 文昌院より使者

2. 文昌院へ使者

3. 津口出米の仰

4. 奥服下さる

5. 銀座より帰りし者登城

十二己未日 暍

1. 式日寄合

2. 御出の時の門番の事

3. 文昌院へ

4. 報恩寺より御守札

5. 藩士混明登城

6. 藩士へ当流の馬番古仰付ける

十三庚申日 暘

1. 湯治御礼

2. 病氣にて扶持切米取上

3. 名替願

4. 誓詞

十四辛酉日 暘 夜雨

1. 仏殿にて祭礼

2. 3. 江戸より飛脚(二)

4、5、8、能登守息せ祝言の祝の使者発足（五）

9、名替願

10、松前兵庫より年始の返礼

11、久昌院より使者

十五壬戌日 晴 戌刻雨

1、5、5、恒例の如く諸御礼（五）

6、久昌院へ

7、鷹

8、名替願

十六癸亥日 雨

1、景勝院・久渡寺より御守札

2、縁組申渡

3、賀願申渡

4、御供差替

5、病死・病気の者のあと 子召出

6、庵居

7、知行所区上願

8、銀山支配の若誓詞

9、悴罷登座事

10、銅山請負延引の事

11、大坂へ登せ置を銅山の事

12、鉛御蔵入りの事（他一）

14、碇ヶ関口の魚類商人の役銀の事

15、屋敷へ弟引取願

16、本参召直

十七甲子日 晴

1、久昌院へ

2、西決よりたらば蟹献上

3、式日寄合

4、在々札差箱見分の事

5、知行南地の事

6、扶持仰付

十八乙丑日 晴

1、湯治御礼

2、久昌院より使者

3、久昌院へ使者

4、5、7、鷹（四）

8、久渡寺庵居願

9、橘雲寺修葺

10、相続願込

11、医者稽古願

12、養生罷登

13、御銀山の事

14、紫草の事

十九丙寅日 晴

1、久昌院へ使者

2、16、狂言（一五）

17、久昌院より使者

18. 老中御礼 (他二)

廿丁卯日 雨降晴及終日夜雨変風

1. 湯治御礼

2. 文昌院へ

3. 笠原八郎兵衛下着

4. 報恩寺より料理差上願

5. 不届者追放

廿一戊辰日 晴 風

1. 玄菰より干菓献上

2. 判力十対出末上る

3. 湯治暇

4. 親病氣中役勤の事 (他三)

廿二己巳日 晴

1. 仏殿にて祭礼

2. 文渡寺より御守礼

3. 式日寄合

4. 誓詞

5. 6. 外記の鬼女病氣 (二)

7. 黒石廟へ御名代

廿三庚午日 終日雨

1. 文昌院へ使者

2. 素庵へ使者

3. 右区礼

4. 文昌院へ

5. 江戸へ飛脚

6. 7. 役仰付 (三)

8. さいかちの木むら取替

9. 江戸より飛脚

10. 参府願に付する奉書来る

11. 又世出雲守の祝言祝儀 (他一)

廿四辛未日 晴

1. 主膳病氣欠勤

廿五壬申日 霽

1. 江戸へ飛脚

2. 仏殿にて祭礼

3. 6. 報恩寺へ仏参 (四)

7. 江戸より家臣来着

廿六癸酉日 晴 (記事なし)

廿七甲戌日 晴

1. 式日寄合

2. 誓詞

廿八乙亥日 終日雨夜雪変風

1. 恒例諸御礼

2. 7. 諸役仰付 (六)

8. 参勤耗算発表

廿九丙子日 終日雨

1. 隠居願 (他二)

4. 青森町奉行へ飼料大豆

(延宝五年三月大)

一丁丑日 昼要

1. 3. 諸御札

4. 留守中城代仰付

5. 留守中勤の系目老中へ

6. 文昌院へ

7. 鷹

8. 参勤の御供の法被書

9. 御守札

10. 閑札・伝馬鯉の出発下命

11. 縁組願

二戌寅日 喝

1. 参府につき式日寄合存し

2. 療治申付

3. 鷹(他一)

5. 宗領願

6. 船頭目付仰付

7. 御供変更願

8. 戎合銀

9. 参府御供の組について

10. 城代勤務の件

11. 与力も不届知行没

12. 家藏舊古願

三己卯日 晦 巳亥雨及夜中

月番

進藤正兵衛

1. 2. 諸御札

3. 文昌院へ

4. 罷登延期願

5. 兵書諸談の件

6. 矢箱・玉箱の未完成の報告

7. 仙桃院の法事の件

8. 江戸より荷物到着

四庚辰日 晦

1. 目付役仰付

2. 不届者知行没

3. 御役御免

4. 参者の組預申渡(他一)

6. 御暇知行没

7. 御暇知行没

8. 鷹

五辛巳日 晦 未刻大地震

1. 仏殿にて祭祀

2. 3. 地震にて諸老参成・帳面記入

4. 文目宛より使者

六壬午日 晦 夜中雨

1. 3. 参府の御供の者へ諸注意

4. 6. 鷹(三)

7. 西馬場にて御覧

8. 道中駄賃金

9、秋田者夫婦凶懸につぎ籠舎  
10、寮庵、庄右征門登城、馳走  
七、癸未日 雨吹

1、式日寄合存し  
2、直中閣札持参の役人出發  
3、御馬先登  
4、又昌院へ  
5、又渡寺より御寺札  
6、又昌院より使者  
八、甲申日 晴

1、江戸へ飛脚  
2、又保金左征門へ香菓  
3、屋敷貸与の件  
4、今別状人海産物献上  
5、九日能見物仰出  
6、江戸より飛脚 (御内書)  
7、江戸にて小知行の者力股差益難、知行没  
8、歩行目付病氣にて下着  
九、乙酉日 小雨申刻虹

1、2、昨日到着の御内書について江戸へ飛脚 (二)  
3、能  
4、又昌院より使者  
5、又昌院へ案内の使者  
6、又能 (二四)

十、丙戌日 晴

1、直中暗の事  
2、組次第の事  
3、上方寢登願  
4、当地山伏の頭分離不許可  
5、国上寺より御寺札  
6、又昌院へ  
7、鷹  
8、武府準備係出発  
9、不寝番勤務の件  
10、御宮の火の番勤務について (他二)  
11、又昌院より使者  
12、軍書講談

十一、丁亥日 晴 未刻風

1、又4、参勤御守中の仰付・申渡等 (四)  
5、地震、御一門・家中登城  
十二、戊子日 昨丑刻雨又今終日 (記事なし)  
十三、己丑日 鳴風日刻地震

1、地震、家中の者登城  
2、又昌院より銭別の品々  
3、嘉例の銭別並上ぐ (他一)  
4、馬取頭の者・悪事につぎ知行没 (他一)  
7、又昌院に於て、銭別の祝儀料理  
十四、庚寅日 隆地震又牧鹿

1、4、東照宮・崇王院へ(四)

5、7、長勝寺へ(三)

十五辛卯日 寅刻地震如一時已刻震風

1、恒例の諸御礼

2、10、精勵者に褒美(九)

11、染屋・塗師・土工精勤の者に扶持下さる

12、左つふ銀山の極印之文字、尾太の二字に

13、二の櫛の蔵普請、延期願

14、17、留守中の寢番(四)

15、23、寄合御番(六)

24、細工仕習の者三人へ御賄下さる

十六壬辰日 暁 申上刻地震

1、8、寢駕御規式の寛(八)

9、16、二、三の廊の御目見の寛(八)

17、弘前より碇ヶ岡迄の御行列

18、碇ヶ岡より草加迄の御行列

19、22、道中御供行司追加の事(四)

23、御道儀(弘前から江戸までの宿舎・里数)

24、寢駕の儀式、節分の大豆・熨斗等を使用

25、北の廊へ使者

城中御目見の面々(十)

寢駕以後、城中産の寛(三)

26、機嫌鏡の飛脚碇ヶ岡へ

27、寢駕の飛脚を江戸へ

28、漢手星歌中、中長屋、二向より二十向、ひさし一向、

二階すと東方へ立申すべき由、碇ヶ岡より申渡わす

29、青森に十二日より夥しき地震、町中騒動

30、南部に五日より地震

31、吹雪大風、数軒破損

右三ヶ条、青森町奉行より

32、之保田、今十二、三日地震度々あり

十七癸巳日 暁

1、式日寄合

2、四日江戸参の飛脚昨夜、碇ヶ岡江下着、披露の上、

今日到着

3、鷹の獲物

十八甲午日 暁

1、戸田七兵衛野内へ

2、御廣方、外八方へ陳目二通

3、昨十七日晚、長峰村火事、二軒焼失

十九乙未日 卯下刻地震午申刻地震同下刻地震

1、辰上刻地震

2、山田清左江門外二名野内へ

3、御鷹の獲物

廿丙申日 暁亥刻地震

1、江戸役者吉沢平左江門外七名江戸へ出登

2、工藤太左江門七日江戸参、道中盛岡にて時多の書状、

披露の上、本日下着

3. 4. 土井能登守、同御様へ進物(二)

5. 7. 正樹院、出雲守、同新造へ進物(三)

8. 太左江門、右使便を勤め、銀子買載

9. 山形まで飛脚二人発足

10. 山中六左江門粗足輕不届につぎ知行没

廿一丁酉日 賜

1. 森岡にて次太夫に櫛の儀、松浦肥前守様へ

2. 江戸大工二人木挽一人左官一人登す

廿二戌日 晩

1. 式日寄合

2. 素庵へ銀子

3. 森の庄左江門と申者、様子不知の者越山

廿三日亥日 賜

1. 廿一日花立よりの飛脚下着、中小姓二名湊出立の時

不調法につぎ通塞仰せ付の由

2. 右両人の代表二名四月江戸着申付

定

一 御鷹場内にての鷹白鳥雁鴨鶺鴒雀取るべからざる

こと

一 古河沼堰にて九月より二月迄鮒等取りぬこと

一 御鷹場内にていた又鳥あるとち取りぬこと

延宝五年二月 日

右札教三十一枚 (求岡他)

廿四庚子日 賜昨午刻荒風及今午刻

1. 小島佐兵江并御鷹共湊より返り下着

廿五辛丑日 晩 昨申酉刻雨申下刻雨

1. 廿三日金木封火事、九軒焼失

廿六壬寅日 晩

1. 帶刀江戸へ発足

2. 廿五日夜浅瀬石村火事、七軒焼失

廿七癸卯日 晩

1. 式日寄合

2. 在々浦々にての作事の節の手続申渡す

廿八甲辰日 晩 昨酉刻雨及今巳刻

1. 恒岡諸士御礼

2. 三月十一日江戸発足の御鷹師二人京都よりの荷物室

領、湯沢にて披露の上今日下着

3. 北村藤九郎内壁昨夜丑産

廿九乙巳日 晩

1. 荒川村の密通の男斬罪、女はたぶさを切り所払い

卅丙午日 賜 亥刻地震

1. 庄兵江青森へ

延宝五丁巳年四月大

月番 盛岡 主曜

一丁未日 酉下刻地震

1. 恒岡諸御礼

2. 先月廿四日江戸発の飛脚山形にて御杖差上の上今日

到着

3. 盛山跡七郎家持たず、借家の件

二戌申日 酉刻地震

1. 式日寄合

2. 3. 普請奉行方への挙出米割死(二)

三己酉日 暘

1. 左竹風氣本腹登城

四庚戌日 暘 辰下刻地震

1. 十一日振江戸普請脚登す

2. 至倉登仰付けられし者、道中駄賃申請許可、右先年  
の例あり

3. 右甚兵征儀、三春にて対面申度由、願の通申渡す

4. 御鷹大妻五人一人扶持切米七十文目にて御托の儀、

申立の通仰付

五辛亥日 暘 未刻地震

1. 外記登城

六壬子日 暘 夜風

1. 去月廿三日江戸発足の飛脚、廿七日本宮に於て披露  
の上今日到着

2. 公方様の二月十二日の隅田川の御鷹野の儀

3. 南部・秋田の論山に上使御下の由

4. 久保金左江門死去につき香奠差上ぐ

七癸丑日 暘 未刻小雨及終夜

1. 式日寄合

2. 長勝寺に於て千部御法事、置刺共同事相話の向、至

飯下され度由、申立の通申渡

3. 打越常左江門の去年、江戸へ使者として急登りの由、

松午當せ申さず候儀申出度由申立につき、其の通申

渡す

八甲寅日 暘 午中刻地震

1. 中小姓三上仁左江門、山口甚兵江今日江戸へ発足せ

しむ

2. 母衣町御堀に自今以後懸着捨て申まじきよう触

3. 打越源五郎兼て親の上方登今日出発  
九乙卯日 暘 (記事なし)

十丙辰日 暘

1. 唐牛十郎右江門、親と一所に在度由、兼て願う、弟

半三郎と同道、江戸へ登る

2. 外記息女死去

十一丁巳日 暘

1. 跡右江門、孫の足のため登城延引

2. 庄兵江青森へ

3. 去月廿九日江戸発の飛脚、四月朔日宇都宮で差上げ

の上、今日下着

4. 依事所常付人足二十人、普請方へ

5. 長勝寺にて千部法事の節の足輕不足の件

6. 同所、番所に敷く筈について

7. 御法事中、長勝寺の詰役の申渡し

十二戊午日 暘

1. 式日寄合

2. 主膳、弥右江内方より、佐竹石見方へ、秋田南部論山にのぎ飛札を。

3. 町奉行方より小山縫之丞方へ同右

4. 当年の域米、油断なく懸ヶ沢へ下す申すべき由、郡奉行、町奉行へ申渡す

5. 粕壁より飛脚下着、南部秋田論山の上使下向にのぎ、旋ヶ岡役人に御用承るように

十三日未日 晴

1. 庄兵江青森より味暮帰着

2. 昨日佐竹石見、小山縫之丞へ遣わした書状を、区事参着

十四日庚申日 晴

1. 志川が峠見分、小山縫之丞方より申出により、当領より千葉源右江内外三名、破ヶ岡迄差越す

2. 岡文左江門を山見の者へ差図のため、志川が峠へ行くことは、老体、悪路故、百姓共にかつがれて行くよう申渡す

3. 御坊主阿部久宅、親相果て延引中の処駈足

4. 破ヶ岡番人相役御付

5. 佐藤新五左江門、尼明今日罷出  
十五辛酉日 晴 午刻雨及申下刻霽

1. 諸御礼

2. 御用の枕類常坊寺より参り、御蔵へ入置くよう申付

く

3. 五日江戸発の飛脚下着、久昌院へ御書、即刻差上

4. 殿様今日三日上着、御祝の爲、一内、重役登城

5. 須藤惣右江内破ヶ岡へ遣わす

十六壬戌日 晴

1. 十日振り飛脚発足

2. 御小姓乳井彦左江内、御産同坊主阿部久琢今日登尾木御銀山範立御祝御入用之寛

一箱着、一箱一荷時服一上下一具、唐牛子右江門へ

一山神五色御幣二

一御祝酒五具入十樽昆布五十本結二把干麴十本、塩引四本三百人、寄物達、餅米二俵大豆一斗小豆一斗粟斗一把

御役人へ御祝儀被下物

一麻上下一具宛笹森次左江内、林源左江内、黒石平

左江門、町田兵助、清藤弥五兵衛

一麻上下一具宛御山先向之助、鈴木彦兵衛

十七癸亥日 晴

1. 弥右江内尼明今日登城

2. 式日寄合

3. 千葉源左江内外一名破ヶ岡より帰り、比内の役人に  
出合の由

4. 景勝院葺替の儀、大木なく、葺替木羽にすべき旨、  
作事方へ申渡す

5. 碓ヶ岡山奉行、外崎、中野両氏、十六日志川が峠にて秋田の山役人に出合、別紙の通委細報告

十八甲子日 陽

1. 仙桃院五十年法事、長勝寺に於て千部諸経、明日より仰付、諸係今晚より相話める

十九乙丑日 陽

1. 九日江戸参の飛脚下着、今七日之晚御老中様御名付にて御参勤、御目見の御奉書土屋但馬守様より御趣、同八日の朝六半御登城、四時分御首尾能御目見仰上被の由申束

右の御祝、久昌院へ申上可の内、申上、御一内へも申達す

廿丙寅日 陽

1. 昨夜仰下されし祝儀御一内方より御物頭御物奉行迄登城

廿一丁卯日 陽

1. 飛脚二人、十日振りで江戸へ

2. 勘定者小頭二人江戸へ(他一)

廿二戊辰日 終日雨申下刻地震

1. 式日寄合

廿三己巳日 陽

1. 献上、用達の歳の新け方を台所役に手伝わせ、丁重にやるように申渡す

2. 十二日江戸参足の飛脚到着

3. 江戸勤番精勤の者二人を褒賞  
廿四庚午日 陽

1. 久昌院へ端午の祝儀諸品

2. 尾木銀山の出銀良き由申来り、納戸へ納めさす

3. 左門、血忌明け登城

廿五辛未日 陽

1. 久昌院長勝寺へ参詣

2. 城米の積登止海上無事上着、本行寺へ守護札の褒美

廿六壬申日 陽 (記事なし)

廿七癸酉日 陽 風

1. 式日寄合(他一)

廿八甲戌日 陽 風

1. 恒例の御礼(他一)

廿九乙亥日 陽

1. 5. 3. 千部法事無事終了(三)

4. 5. 延罰中の者、法事に(さ)赦免(二)

6. 神七右江戸自火により家焼失(他一)

廿丙子日 申刻雷荒雨及夜半

1. 設楽左江戸他二、家老に飛札一通、その返札三人より飛根にて直々あり

2. 神七右江戸奉公達慮申し出でるも勤仕を

3. 外記登城

延宝五丁巳年五月小

月番 北村弥右衛門

一丁丑日 暁 未上刻地震

1. 恒例の諸士御礼

二戌寅日 暁 風

1. 式日寄合

2. 名跡願許可

3. 四月廿二日江戸発の飛脚到着、去月十五日、平蔵持

軍から大鯰三枚舞領の由

4. 発駕の節、又保田にて佐竹右京大夫へ馬を直める差

のところ失念につき、向役宛めとして書記すべき由

5. 旅坊主（永権）追放

三己卯日 暁

1. 正蔵有物舞領の祝儀として一門、物頭、物奉行登城

四庚辰日 暁

1. 玄門の組頭跡役江戸へ伺いの免許可（池田金右衛門）

2. 大工頭吉村太郎右衛門跡扶持の内金子三両三人扶持

俸八十郎に下さる旨江戸より申来る

3. 千葉忠左衛門江戸より下着

五辛巳日 暁 未刻雷発

1. 某例の端午の御礼

2. 10端午の祝儀（一内以下一給仕まで）（九）

六壬午日 暁

1. 諸出家端午の御礼

2. 又昌院御用人跡役仰付（山田彦兵衛）

3. 發賣御用戸田左五兵衛江戸経由にて発足

4. 土井能登守御奥局親類へ対面の由廻状

5. 左門組小頭池田金右衛門誓詞

七癸未日 暁 未申刻雨及今卯刻

1. 式日寄合

2. 發賣御用の南藤正左衛門足輕目付今日発足

3. 外記登城

八甲申日 暁

1. 飛脚二人江戸へ十日振にて出発

2. 山田彦兵衛誓詞

九己酉日 暁

1. 江戸諸米廻送の鳴屋係左衛門船、鳥居崎にて被損の

由注進

2. 青森所より南部へ盗馬あるにつき詮議のため加番五

人鉄炮五挺を返るよう置隊庄兵より申来る

十丙戌日 暁 夜雨

1. 山田彦兵衛又昌院へ御目見

十一丁亥日 暁 （記事なし）

十二戊子日 巳午刻雷二発

1. 式日寄合

十三己丑日 暁 未刻雨（記事なし）

十四庚寅日 暁 （記事なし）

十五辛卯日 午刻雨

1. 恒例の諸御礼

2. 小祝源右江内鷹師六人江戸へ罷足  
十六壬辰日 晦 (記事方し)  
十七癸巳日 晦

1. 式日寄合  
2. 須藤長三郎物書役の誓詞  
十八甲午日 陽

1. 能登守御與御局方へ米十俵他に味噌新酒有を遣上  
2. 不破清兵衛家来左次右江内不届につき追取、破ヶ崩  
横目へ越山状

十九乙未日 晦

1. 杉山八兵衛昨日下午着登城

2. 沼田七郎兵衛登城延引の儀申渡す

3. 三世寺御蔵破損につき新築を作事奉行へ申渡す

廿丙申日 陽

1. 高田村・高杉村・長野村・宮館村の足輕目付、卒黨

前伺いの処誓詞申付くべき由申渡す

2. 尾太銀山今月十八日大銀の銀筋出現につき、極印の

上束月末より差上ぐべきの由注進

3. 赤牛のことにつき罷奉行へ申渡す

廿一丁酉日 陽 (記事方し)

廿二戊戌日 陽

1. 式日寄合

2. 弥右江内組坂元市郎右江内和徳置代官の誓詞

3. 町奉行手付の物書世森唐右江内扶持方五人扶持下さ

れたく申立の処、未暮まで飯米五人扶持とし、下向  
の節相究むき由申渡す

廿三己亥日 陽

1. 成田忠右江内病氣養生の間弘前に罷在りたき旨申立つ

廿四庚子日 昨亥刻雨及今巳刻

1. 大鰐村湯むちり初木爪献上

廿五辛丑日 晦

1. 十五日十八日兩度江戸発足の飛脚下着

2. 帶刀直世の由申来る

廿六壬寅日 申酉刻大雨雷発

1. 2. 4部御法事首尾よく相済み、祝儀の帷子江戸より

3. 飛脚二人江戸へ(八日振)

廿七癸卯日 晦 夜雨

1. 式日寄合

廿八甲辰日 辰巳刻雨 申刻大地震

1. 恒例の諸御礼

2. 申上刻大地震、御台所御蔵の天水こぼる、成郭別儀

無し、何れも登城

3. 御勘定の者二人、領差二人下着

廿九乙巳日 晦

1. 三の郭の橋修慶当月八日よりは止みて二十一日出来

先例の通祝儀の竟

2. 鯉ヶ沢より昨日の地震、御役屋御蔵別儀寂差由注進

3. 外決にて毛洞断の由注進

延宝五年六月大

月番 盛岡主膳

一丙午日 晦

1. 恒例の諸御礼

二丁未日 晦

1. 式日寄合

三戊申日 晦

1. 長勝寺法事中相詰候町屋（三人）へ鳥目二百疋宛下

さる

2. 主膳病氣本復登城

四己酉日 晦

1. 御銀山にて人を討ち欠落候者猫坂にて磔、候者泳遣

2. 紫根上方にて高値にのき、三十太誓目一駄に付銀子

百二十目宛と相定め御威へ上させ申すべき由申渡す

3. 町奉行手付足輕三人、南部より参り候従者二人放火

の風聞あるにより、内一人を搦捕る。褒美として一

人銀十文目宛下さる

五庚戌日 晦

1. 本参集田長九郎病氣につき名跡願提出

2. 五月十五日十八日江戸発足の飛脚同廿五日到着、帶

刃の値世にのき添田儀左江門を遣あるの由申来る

3. 五月廿三日江戸発足の飛脚下着、儀左江門飛河江尻

里にて帶刃に對面申會うも同心なき由申来る

4. 右により傍島薩越へ委細申すべき由申来る

六辛亥日 晦

5. 御内分金并出銀御用狀江戸へ

1. 献上の清紙を江戸へ上す

2. 九日振り飛脚二人江戸へ

3. 5. 尾太山へ承遣された回吉村御歳百姓十五人の逃

亡及び越訴についての処置の覺

七壬子日 晦 風

1. 式日寄合

2. 庄兵衛青森へ

3. 6. 藩士の買掛金につき江戸の鵜屋、葛屋、野村屋

より苦情あり、物頭物奉行手廻内記十五江門支配方

本参小姓組中小姓歩行小頭まで申渡す書付の覺

7. 津嶋村可病氣のため江戸より下着の届出

八癸丑日 晦 風

1. 弥右江門眼病にて登城なし

九甲寅日 晦 風

1. 唐牛丸右江門抱獲にて江戸より疎晩下着

2. 今月より末月晦日まで在々野山にて紫根穿取すにの

き、町の者にてはけみのため穿取なき者は町奉行へ

届出るよう町奉行へ申渡す

十乙卯日 晦 辰巳刻地震

1. 青森の千吉沖口出役銀についての定書由置き、終ヶ

沢へも書状を直す由の區祿庄兵衛書状昨九日到束

2. 碓ヶ岡山險道あり馬通るにつき小知行三人組頭二人

を今明日中に派遣すべき由物頭へ申渡す

3. 北の郭玄閣御庭の石破樋にのき修費を申付く

4. 在府借家の者ばかり打ち火付けがましき者あらば、

家主は勿論粗頭まで急なきの由、本参粗頭、新地主

組頭へ申渡す

5. 山中六左江門足輕猪古の柵め明日野へ罷出る由申立

6. 外記登城

十一丙辰日 晴 午刻地震 (記事なし)

十二丁日 晴

1. 式日寄合

2. 早瀬野にて馬盗人を捕縛する者へ米一俵充當す

3. 熊野堂裏直の鳥井、先年公儀へ申立ての通り丸太に

て仕置候よう作事奉行へ申渡す

4. 越後中將家中児玉八左江門方へ酒二斗他を遣す

十三戊午日 晴 風 辰上刻地震

1. 馬盗人の親兄弟を追放、野内へ越山状

2. 佐井七兵衛狄場左兵衛不屈にのき追放、碓氷へ越山状

十四己未日 晴

1. 須藤池石江門、岡文左江門に須御衆見分に罷越す

2. 文昌院持病を罷す

十五庚申日 晴

1. 恒例の諸御礼

2. 能登守御與四月爰元へ罷下り、今日江戸へ罷足

十六辛酉日 (天候なし)

1. 大鷗村湯いちり初茄子を上る

2. 西束の秋田領境海辺に出家とおほしき死人ある由注

進

3. 早瀬のおそれあり、雨詣祭を百次寺、長勝寺へ命ず

4. 油布庄左江門、塩崎次郎左江門江戸より下着

十七壬戌日 晴

1. 式日寄合

2. 内直迎村与三左江門籙舎赦免弘前払いにのき町奉行

へ申渡す

3. 左門病氣本腹登城

十八癸亥日 晴

1. 油布庄左江門の八僧の儀願の通り仰出され、柳雪と

改名の由

2. 柳雪の役屋敷差上げ、当分の向唐牛甚右江門屋敷に

罷在にき病許可

3. 柳雪預りの町同心を極士半太夫預りとする

4. 三世寺御蔵作事の請松役の誓詞

5. 早瀬野村の肉瀧の末奥に住居せる馬盗人を斬罪

6. 鷹師川森田角左江門と吉野田村足輕次兵衛の出入の

際、角左江門方に頼まれ偽証した銅屋町松左江門を

追放

十九甲子日 晴

1. 2. 本行寺、伊勢神主に晴雨祭申付く

3. 外記登城

廿二日 晴

1. 岩太山にて山伏共請雨の旨可奉行へ申渡す
2. 山田朝兵衛部屋勝手より様直すべき由依事奉行へ申渡す

3. 十日振罷脚三人江戸へ

4. 下切御泳廻見の岡文左江内、通讀池右江内罷歸る

廿一丙寅日 晴 風申刻雨

1. 岡田理右江内足輕播古のため野へ罷出る

廿二丁卯日 晴

1. 式日寄合

2. 本行寺雨書の近早速雨降り候につき白銀二枚遣す

3. 熊野堂鳥井立直すにつき、神樂仕度曲の申立て

4. 去十一日江戸発の飛脚

5. 6. 之世太和・出雲守夫妻、能登守夫妻の招宴に就て

7. 片岡九左江内妹の縁組許可

8. 兼平喜右江内の跡式許可

9. 工祿長助病氣養生中の役銀差上げの願許可

10. 添田儀左江内与力斎藤吉兵衛名跡願の許可

廿三戊辰日 晴 亥刻雨

1. 5. 16. 役儀不審につき、千葉忠左江内を荏原八郎兵衛

へ、沼田七兵衛を木村伊右江内へ、子の三十郎を鎌

田空大夫へそれぞれ預置くについての寄合場に於け

る申渡しの際(一六)

廿四日 晴

1. 吉利支丹改め毎年の通り吟味すべき旨申渡す

2. 本城御殿蔵書請の人足に日用を雇うこと許可、但し

南部者は入りぬよう堅く番人へ申付く

3. 先年の通客座艀にて書物虫干の由申渡す

4. 雪水四郎兵衛秋本左太右江内預の番鑑のこと

5. 御花屋御蔵へ水繁りかゝり、屋根汚れるにつき、枝

を払うことを申渡す

廿五庚午日 晴 酉刻雨及今辰刻

1. 主馬の息女驚風のため昨晩死去

2. 百沢寺にて雨請の延、雨降り候に付白銀二枚を遣す

廿六辛未日 晴

1. 門取藤庵侍忠庵療治播古に会津へ登せ申渡す願状を

差登せ候延、人柄よく播古入精の者につき江戸へ登

すべきこと。直中馬一疋上下の賄申付くべき由

2. 家中外科無之向、人柄を吟味の上、播古入精申すべ

き者を南居置くよう申渡す(石ニヶ茶江戸より)

廿七壬申日 晴 丑刻地震

1. 式日寄合

2. 三日市太夫次郎名代として何年の如く田中半右江内

一昨目下着

3. 求月四日の晩より五日迄、華秀寺にて法事につき賄

申付く

4. 喜多村源八屋鋪地祭を最勝院に申付く

5. 大禰村湯ひちり加賀助初真瓜を上る

廿八 癸酉 晴

1. 恒例の諸御礼

2. 十一日振飛脚二人江戸へ

3. 尾太銀山本銀の所へ穿付く由注進

4. 青沼与四右江門下着

廿九 甲戌 晴 夜中細雨

1. 外託、息女の忌明け登城

卅 乙亥 晴

1. 之昌院番人病疑につき、木村弥次右江門へ申付く

2. 田中源十郎宿、市郎左江門と申者不審あり相尋候処、

尾太銀山へ参る由、妻子は源十郎預置くよう申付け

候処、市郎左江門行江不明につき、妻子は親類方へ

遣すべき由申渡す

延宝五年七月小

月番 盛岡主膳

一 丙子 日 昨未刻雨及今辰刻 晴

1. 弥右江門眠病のため盛岡主膳月番を勤む

2. 恒例の諸御礼

3. 庄兵江青森より帰り今朝登城

4. 例耳の如く御腕町にて駒改め

5. 秋田南部論山出入落着の祝儀として飛札を遣す

二 丁丑 日 晴 午刻大雨及亥刻

1. 式日寄合

2. 今日も駒改め

3. 十四日より廿日迄御進相模の願出、旅者入らざる様

吟味の上盆中興行を許可

4. 秋田南部の論山、杉山は秋田領、金山は南部領と老

着の由の風説確ヶ岡から申来る

5. 十三より十四日迄長勝寺にて施餓鬼、暗人申付く

6. 当地にて用木調達の越後守の家臣今日発足

7. 中川小華人去年より知行拜領につき、沖口米出した

き由申立つ、許可

三 戊寅 日 晴 申下刻地震

1. 佐竹石見へ置した脚力到着、論山右京大夫罷召しの

まま相済み大悦の由の区札持参

四 己卯 日 晴

1. 三日市大夫次郎武者屯番所にて進物へ御致及、慰斗

を上る

2. 3. 今晚より明日まで華秀寺にて施餓鬼についての賄

のこと

4. 大直寺次郎市病氣本腹登城

五 庚辰 日 晴

1. 十四日より十五日まで智願寺に施餓鬼申付く

六 辛巳 日 風 未刻雨及亥刻

1. 御腕町川除普請奉行申付く

2. 庄右江門方へ町人足毎日四人宛出すべき由町奉行へ

申渡す

3. 西浜みいれ観音堂へ八木橋至兵江を遣す由申渡す

七 壬午日 已亥雨

1. 恒例の諸御礼

2. 玄關より所々の張番前法の如く勤むべき由

3. 六月廿六日江戸発足の飛脚、途中洪水に逢い昨夜到着

八 癸未日 昨寅下刻地震 晦

1. 式日寄合

2. 主膳尾太銀山へ罷越す

九 甲申日 風雨鳴枝 (記事なし)

十 乙酉日 晦

1. 2. 坂本十之丞へ預置かれた足立源左江門を庄兵江組杉沢助十郎方へ預置くことの申渡し及び道中警固のこと

こと

十一 丙戌日 晦

1. 銀山へ罷越した主膳帰城、銀山にての祝儀の寛

十二 丁亥日 晦

1. 式日寄合

2. 足立源左江門を預った坂本十之丞へ褒美

3. 丹野席右江内妹の叙組許可

4. 源八屋敷表通り公念に致すべき由普請奉行へ申渡す

5. 本城の宝蔵の大柱柱を二本に致すべき由作事奉行へ

6. 材木登せの手船、帰路深浦沖にて破船の由

7. 八木橋空兵江見入観音堂から罷歸る

十三 戊子日 昨亥刻雨及今巳刻

1. 内分銀持参の飛脚組頭三人小知行二人十二振、髭兵

2. 小知行改の帳面、改直し物頭中へ夫々渡すべき由

3. 御厩町橋守不作法につき、所払いの上居屋取払いの旨申渡す

4. 五十石町川原筋紛着往来につき、往来停止の札を立つ

5. 十五日の久昌院の仏詣の供を申渡す

十四 己丑日 晦 子刻雨

1. 4. 長勝寺・報恩寺・真昌寺・誓願寺にて施餓鬼

十五 庚寅日 午未刻大雨

1. 例年の御礼今日無し

2. 久昌院 報恩寺・長勝寺・耕春院・隣松寺へ仏参

十六 辛卯日 晦

1. 並御勘定仕長内林兵江悪事有るにつき御勘定仕の中へ預置くべき由申渡す

十七 壬辰日 晦

1. 式日寄合

2. 御用の五十三着岸につき、御用の分を弘前へ運び残りけ置置くべく申渡す

3. 尾太銀山荷数七分出候につき、下荷の分払申したき由の申立てを許可

4. 面浜鹽川除並びに穿替の願許可

十八 癸巳日 未刻大雨及亥刻此間雷激発 (記事なし)

十九 甲午日 昨夜近來稀有之大雨 晦

1. 面浜川除奉行申付

2、在府中の赤平源右江門方へ出入の徒者を摘捕り籠舎  
3、御勘定仕長内林兵紅離舎申付く、尋子は親類預け  
4、家中より上方へ申越候買物下着の節の請取の手続き  
にのいて申渡す

5、6、最勝院祈禱所作事についての申渡し

7、八幡祿宜町の橋大破につき作事奉行へ申渡す

8、誓願寺本堂屋椽破損の繕差置くべき由申渡す

9、九日江戸発足の飛脚下着

廿二日 晦

1、先月廿六日公方様より平蔵鯉拜領の由申来る、一匹、  
奉行まで祝詞登城

2、今月三日平蔵熟瓜差ぐの処首尾よく相済む由申来る

3、今六日例年の如く清蔵塩竈上首尾よく披露の由

4、江戸常詰の諸士の知行金六月末三ヶ一、極月十五日  
までに三ヶ二相渡害の由申来る

5、6、7、縁組許可

8、川森田角左江門追放、忤の知行取放ち申付く

9、味噌漬の鶏差登すこと無用の由

10、歩行三人六月晦日江戸にて悪事有り、それぞれ斬罪  
あほう松、追放の由申来る

11、銀山へ他國の金穿呼寄すこと延引の由

12、久保田市郎左江門宅にて娼婦の傷火に逢候者の竟

都合十七人(死者五人)、これにより市郎左江門御

奉公延引のこと申立の

廿一丙申日 晴

1、鷹師川森田角左江門今日破ヶ岡口追放

2、紫荷宰小知行組頭二人に小知行二人を加うべき由申  
渡す

廿二丁酉日 晴

1、式日寄合

2、庄兵紅青森へ罷越す

3、真土村に右江門賢喜蔵不届につき破ヶ岡口越山

4、先年の比内への欠落者八人の引渡しについての佐竹  
石見の書状につき江戸へ伺いの処置報

5、上方へ申越候広蓋下着、大納戸役へ渡す

廿三戌戌日 晦

1、欠落者について大館佐竹石見方へ達した飛脚帰着

廿四己亥日 暗夜中大雨留禁 (記事なし)

廿五庚子日 晴

1、大湯五兵江門にて支配の歩行不儀あり、奉公遠慮  
の処今日罷出るよう申渡す

2、茶葉袋十詰三竹入一花茶湯のために長勝寺報恩寺へ

廿六辛丑日 晴

1、長内林兵紅の不儀につき遠慮中の勘定奉行二人今日  
より勤仕

廿七壬寅日 晴 夜雨

1、式日寄合

2、長内林兵紅の相番(二名)區鑒申付く

廿八癸卯日 晩

1. 恒例の諸御礼

2. 岡田理右征門足輕をつれて野懸

3. 久保田市郎左征門与力須藤三郎右征門火を取寄せる  
の不儀につき閉門、其外の与力は奉公延慮

廿九甲辰日 暁

1. 帶刀組津嶋權太郎江戸にて不儀につき、請人たる歩  
行津嶋守右征門奉公延慮の由

2. 帶刀組鈴木清左征門当番江戸台所横目として差登せ  
候処、別人に仰付けられ清左征門帰國候、それにつ  
き登代金を返すべきかの申立てあれども、定めの休  
息を与へ登代金は無用の由

3. 十日、十一日振飛脚二人発足

4. 小知行組頭長内左次右征門へ儘すところ自害につき  
知行取放り

延宝五年八月大

月番

北村弥右征門

一 日 日 (天候なし)

1. 弥右征門眼病本復登城

2. 恒例の諸御礼

3. 北村源八六月廿六日江戸の御前にて北村を喜多村と  
改むべき由仰付らる由申来る

4. 昨日到着の佐竹石見方よりの飛脚に金子を与え今日  
返礼を儘す

5. 佐竹石見方よりの科人請取りに傍島主水・千葉

源右征門他破ヶ岡へ派遣、主水への書付のこと

二丙午日 (天候なし)

1. 式日寄合

2. 5. 比内へ欠落の百姓妻子共十八人請取りの次才

三丁未日 (天候なし)

1. 欠落者の件につき比内へ謝礼の使者

2. 十三より飛脚、朔日火事にて七十軒餘焼失の由注進

3. 大直寺次郎市登城

四戊申日 (天候なし)

1. 主障病氣にて登城なし

2. 十三火事の焼失家数六十九軒、火元岡本市郎右征門  
と申す町人の由

3. 七月廿三日江戸発足の飛脚到着

五己酉日 (天候なし)

1. 丹野康右征門妹の縁組許可

2. 小野寺弥五左征門病氣致動め成難く伊予守へ申入れ、  
伊予守より戻様へ、願の通り御暇下さる由申来る

3. 中井五右征門と申す勘定の者、廿四日にて重病につ  
き永御暇許可

4. 刺刀大五対、同中十対、同小十対計二十五対を岡吉  
伝左征門へ申付くべき由申来る (他一)

(文責 荒井清明・假名第一・小館衷三・佐藤仁

・宮崎直生)